

白石市文化財調査報告書第15号

# 茶園遺跡

—白石市福岡藏本—

昭和51年3月

白石市教育委員会  
京成電鉄株式会社

茶園壇跡正談表

| 頁  | 行     | 譜      | 正      |
|----|-------|--------|--------|
| 1  | 上から8行 | 壇物     | 壇跡     |
| 3  | 上から4行 | 2区     | 3区     |
| 13 | 図     | Aトレチ3区 | Aトレチ2区 |

# 茶園遺跡

—白石市福岡藏本—

## 序

白石市街地の北西で白石川北岸の河岸段丘上に位置する茶園遺跡は、昭和38年片倉信光・佐藤庄吉両氏の遺跡分布調査により発見されて以来今日まで遺跡の範囲等は明確にされないで保存されていた。

このたび京成電鉄からこれら茶園地域を宅地造成地として計画書が提出されたため遺跡の保存について各関係機関と協議した結果、この遺跡の試掘調査を実施することになりました。

今回の調査では、遺構や明瞭な遺物包含層は発見されなかつたが縄文時代早・前期及び奈良・平安時代の複合した遺跡であることが明らかにされた。これがその報告書です。

本書は、白石市の郷土史を究明するうえで重要な参考資料となりますのでご活用いただければ幸甚と存じます。

最後に、この調査のためにご尽力いただいた白石市文化財保護委員の中橋彰吾氏、高橋辰男氏、京成電鉄(株)、平間組(株)ならびに調査協力者各位に對し、深く感謝の意を表します。

昭和51年3月

白石市教育委員会 教育長 小沢五郎

## 序

白石市福岡藏本茶園地区は、国鉄白石駅より、北西約2キロ、眼下に白石川及び白石市街地を望む高台に位置しております。

今般当社におきまして、此の茶園地区に宅地開発事業を計画することになり、当該地区内に存する宮城県指定遺跡の取り扱い方に付き、県教育委員会文化財保護課並びに白石市教育委員会にご指示を仰いだところ、幸い、市教育委員会におかれましては、当該遺跡の発掘調査（トレンチ調査による遺跡の範囲確認）、それに続く資料整理を心良くお引き受けくださる事になり、ここにその調査結果をご報告できる次第です。

遺跡発掘調査及び本報告書の作成にあたり、ご指導、ご尽力を賜わりました宮城県教育庁文化財保護課、白石市教育委員会並びに白石市文化財保護委員中橋彰吾・高橋辰男の両氏に対し、<sup>恭</sup>深歎の意を表する次第です。

昭和51年3月

京成電鉄株式会社

取締役社長 川崎千春

## 目 次

|                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 序.....           | 白石市教育委員会教育長 小沢五郎   |
| 序.....           | 京成電鉄株式会社取締役社長 川崎千春 |
| まえがき.....        | 中橋彰吾               |
| 調査要項 .....       | 1                  |
| 茶園遺跡調査報告         |                    |
| 1. 位置と地形.....    | 2                  |
| 2. 周辺の遺跡.....    | 2                  |
| 3. 調査日誌.....     | 3                  |
| 4. 調査概要.....     | 4                  |
| 5. 出土遺物.....     | 5                  |
| 6. 考察.....       | 6                  |
| 茶園遺跡トレンチ位置図..... | 7・8                |
| 茶園遺跡トレンチ断面図..... | 9                  |

## まえがき

茶園遺跡は昭和38年に、片倉信光、佐藤庄吉両氏による遺跡分布調査によって発見された。このときは、段丘東端に近い畑地より縄文時代中期の土器片、石匙、土師器片、須恵器片などの遺物が採集された。以来、埋蔵文化財包蔵地、茶園遺跡（遺跡番号02033）として宮城県遺跡地名表に記載され、周知の遺跡となった。

現在、宮城県教育委員会は、重要な文化財や、主要な埋蔵文化財包蔵地などの保護や現状の把握のため、文化財パトロールを実施しているが、本茶園遺跡が本年度のパトロール指定遺跡となり、9月中橋が遺跡の巡回を行ったが、遺跡は昭和38年の環境とは著しく異なり、段丘上は低灌木、雑草の生い茂る原野と化しており、遺跡の確認、範囲、遺物の採集等はできなかった。

このような現状のなかで、跡物を含む茶園地域が、宅地造成地として計画が提示された。

白石市教育委員会は、前述のように遺跡の範囲も明確にとらえられていないことから、遺跡の範囲の確認のため、この調査を計画し、実施した。

中 橋 彰 吾

## 調査要項

|             |                  |         |
|-------------|------------------|---------|
| 1. 遺跡の所在地   | 白石市福岡藏本茶園        |         |
| 2. 調査方法及び目的 | トレンチ調査による遺跡の範囲確認 |         |
| 3. 調査期間     | 昭和50年10月13日～16日  |         |
| 4. 調査主体者    | 白石市教育委員会         |         |
| 5. 調査担当者    | 白石市文化財保護委員       | 中 橋 彰 吾 |
| 6. 調査指導者    | 宮城県文化財保護課調査第2係長  | 斎 藤 良 治 |
| 6. 調査員      | 白石市文化財保護委員       | 高 橋 矢 男 |
|             | 福島大学             | 小 川 淳   |
|             | 福島大学             | 佐 藤 駒   |
| 7. 調査協力者    | 白石市越河五賀          | 宍 戸 定 雄 |
| 3. 作業員      | 延18名             |         |

# 茶園遺跡調査報告

## 1. 位置と地形

茶園遺跡は、白石市街地の北西、東北本線白石駅から約2kmの白石川北岸の河岸段丘上にある。

東流する白石川北岸に沿って発達する原地区的段丘を、安田喜憲氏は高位面(H面)、中位面(M面)、低位面(L面)の3つに大きく区分しており、その区分に従えば茶園地区はH面段丘にあたり、海拔高度120m～130m<sup>(1)</sup>、現河床までは200m～400mの距離があり、現河床からの比高は約80m前後である。

茶園地区的段丘はほぼ平坦であるが、東端部に至りゆるい傾斜をみせ、3～4段の低い段丘をもち次第に傾斜を強め、末端は約40m程の段丘崖で、陣場地域に発達する段丘(M面)に接する。北側はゆるい傾斜をみせ、小川によって小さな谷が形成されて、鍋石地区と切断されている。南側も小川によって開拓された段々の小水田と谷間によって、段丘が分断されて高い段崖をみせている。

この段丘の東南隅に立つと、白石市街は勿論、白石盆地が一望の内でまことに眺望佳絶の地である。

## 2. 周辺の遺跡

茶園遺跡のある白石川北岸の段丘上には、原始古代から近世にかけての遺跡がいくつか分布する。

本遺跡の東南約500mの位置に菅生田遺跡がある。海拔高度40m～60m、現河床からの比高2m～5mの低位段丘面(L面)に立地する。縄文時代中期末から後期初頭に属する集落跡で、敷石住居跡、小窖穴遺構、埋設土器遺構などが発見された遺跡である。<sup>(2)</sup>

この菅生田遺跡から西約500mの位置に、薬師堂遺跡がある。菅生田遺跡と同じ、低位段丘面(L面)にあり、縄文時代後期から弥生時代にかけての遺跡で、完形土器を含む良好な資料が発見されている。

また、茶園遺跡の北には、小さな谷をへだて約150mの位置に鍋石古窯跡、北西約2kmの地点には萩の坂古窯跡がある。いずれも日向段丘上に立地する窯跡で、ともに江戸時代の磁器及び陶器を焼いた窯跡である。

### 3. 調査日誌

10月13日 晴 調査員3名、作業員6名

段丘全面に雜木、雜草などが茂っており、草刈り作業終了順にトレントを設定する。

各トレントは、1m×4mを1区画とし、連続した数区画を1トレントとする。

段丘東端部のAトレント（南）は2区画、Bトレント（東）は3区画、Cトレント（北東）は8区画を設定する。

Aトレント2区から発掘開始、夕方までに完掘。石屑1点出土。

図面作成は小川、佐藤調査員担当。

写真撮影。

10月14日 晴 調査員3名、作業員6名

朝、県教育庁文化財保護課、斎藤良治第2調査係長来白、直ちに現地にて終日指導をうける。

Bトレント1区、3区、Cトレント1区、3区、8区の発掘開始。

Bトレント1区完掘。石屑数点出土。3区より、不定形石器、縄文土器片、石屑等出土。

Cトレント1区、縦形石匙、縄文土器片、石屑等出土す。夕方までに完掘。3区より楕円形石器、縦形石匙、縄文土器片、磁器片、石屑など出土。完掘。8区、堆積層浅く、出土遺物なし。完掘。

Dトレント（北）3区画、Eトレント（北）3区画、Fトレント（北西）3区画

Gトレント（南）3区画を草刈り後設定。

Dトレント1区発掘、堆積層浅く出土遺物なし。完掘。

Aトレント2区、Bトレント1区、Cトレント1区、8区のセクション図作成。

写真撮影。

10月15日 晴 調査員3名、作業員3名

Eトレント3区発掘。

Fトレント1区、3区発掘。3区より磁器片、石屑出土。1区、3区とも完掘。

Gトレント1区、3区発掘。1区より石鏃、土師器片、3区より不定形石器、土師器片、須恵器片出土。両区完掘。

Cトレント3区、Dトレント1区セクション図作成。

10月16日 晴 調査員3名、作業員3名

宍戸定雄氏調査に参加。

Bトレント3区を精査。第Ⅱ層より縄文土器片出土、文様は縄文のみ。この第Ⅱ層と第Ⅲ層（地山）の境界が不明瞭である。完掘。

Cトレント1区の南東壁に沿って、地山を30cmほど下げる。

Eトレント3区完掘。出土遺物なし。

Bトレント3区、Eトレント3区、Fトレント1区、3区、Gトレント1区、3区セクション図作成。

写真撮影。午後4時調査終了。

#### 4. 調査概要

今回の調査の主目的は遺跡の範囲を知るためであり、この目的のため段丘の縁辺にAからGまでのトレントを設定した。各トレントには1m×4mを1区画とし、それぞれ数区画を設け調査を実施した。

##### Aトレント

2区 堆積層は第Ⅰ層、暗褐色腐植土層（表土）、第Ⅱ層は第Ⅳ層と同じ黄褐色のローム、第Ⅲ層、黒褐色土層、第Ⅳ層は黄褐色土層（地山）となるが、第Ⅱ層と第Ⅲ層はトレント中央から南へ、ブロック状に挿入している。

出土遺物は第Ⅰ層より石屑。

##### Bトレント

1区 第Ⅰ層 暗褐色腐植上層（表土）、第Ⅱ層、黄褐色土層（地山）となる。第Ⅰ層は約20cmで地山に達するが、この堆積層はやや赤味をおびた暗褐色で、上部はいく分さらっと柔かで、下部は粘質である。この第Ⅰ層の下部からフレーク状の石屑が出土した。

3区 第Ⅰ層の表土は1区より堆積は厚いが土質はほぼ同じである。第Ⅱ層はやや黄色味をおびた灰褐色で、粘質が強く下部には小粒の礫がやや多くなる。第Ⅲ層は黄褐色土層（地山）であるが、第Ⅱ層の下部は次第に黄色味を増し、第Ⅲ層（地山）に近い色相になり、第Ⅲ層に移行するが、第Ⅱ層と第Ⅲ層の境界は画然としない。

遺物は第Ⅰ層下部から、不定形石器、フレーク状の石屑が出土し、第Ⅱ層上部から中部にかけて、縄文土器片が出土した。文様は縄文のみである。この第Ⅱ層は遺物の出土状態からみて、遺物包含層ではなく、散布地と考えられる。また、土質からみて、流土の堆積層と思われる。

##### Cトレント

1区 第Ⅰ層は黒褐色腐植上層（耕土）で約40cm、第Ⅱ層は茶褐色土層（白色の粘土質の細粒がまじっている）で10cm～20cmの堆積層、第Ⅲ層は赤褐色土層（地山）である。

遺物は第Ⅱ層から、縄文土器片、縦形石匙が出土した。この層は遺物包含層ともみられる。

3区 第Ⅰ層は1区よりいく分白っぽい灰褐色腐植上層（表土）で、1区にみられた第Ⅱ層は分離できなかった。第Ⅱ層は茶褐色土層（地山）である。遺物は縄文土器片、梢円形石器、縦形石匙が第Ⅰ層から出土した。

8区 堆積層は薄く、第Ⅰ層は灰褐色腐植土層（表土）で、第Ⅱ層は黄褐色土層（地山）である。

遺物は出土しない。

#### D トレンチ

1区 第Ⅰ層は15cm～20cmの灰褐色腐植土層（表土）で、第Ⅱ層は黄褐色土層（地山）である。遺物は出土しない。

#### E トレンチ

3区 第Ⅰ層は灰褐色腐植土層（表土）で、30cm～50cmとやや厚い堆積であるが、遺物は出土しない。第Ⅱ層は砂礫を含む黄褐色土層（地山）である。

#### F トレンチ

1区 第Ⅰ層は灰褐色土層（表土）、第Ⅱ層は黄褐色土層（地山）である。遺物は第Ⅰ層より磁器片、石屑が出土した。

3区 堆積層は1区と同じである。遺物は出土しない。

#### G トレンチ

1区 第Ⅰ層は灰褐色土層（表土表Ⅰ）で、堆積は10cm～20cmと薄い。第Ⅱ層は黄褐色土層（地山）である。遺物は、石鎌、土師器片が第Ⅰ層より出土した。

3区 第Ⅰ層は1区と同じであり、第Ⅱ層は1区よりやや疊が多く含まれている、黄褐色土層（地山）である。

遺物は、不定形石器、土師器片、須恵器片が第Ⅰ層より出土した。

## 5. 出土遺物

土器の出土量は少なく、いずれも小破片で器形を推定し得るものはない。

縄文土器 13片、土師器 5片、須恵器 1片

縄文土器は縄文のみで他の文様はみられない。焼成は良好で、細かい砂粒、纖維を含み、裏面に擦痕がみられる。縄文はすべて單節の斜行縄文である。

土師器は5片中4片が内黒土師器である。器面調整は不明である。須恵器も同様である。

石器は縦形石匙2点、石鎌1点、横円形石器1点、不定形石器2点、計6点が出土した。

| 石 器 名     | 遺物図<br>版番号 | 出 土 地 点  | 長 さ   | 幅     | 厚 さ   | 材 質 | 備 考 |
|-----------|------------|----------|-------|-------|-------|-----|-----|
| 縦 形 石 匙   | 2          | Cトレンチ 1区 | 5.8cm | 2.4cm | 0.6cm | 頁岩  |     |
| 縦 形 石 匙   | 3          | Cトレンチ 3区 | 4.1   | 2.3   | 0.8   | 石英  |     |
| 石 鎌       | 5          | Gトレンチ 1区 | 3.5   | 2.7   | 0.8   | 頁岩  |     |
| 横 円 形 石 器 | 4          | Cトレンチ 3区 | 8.8   | 5.0   | 2.1   | 流紋岩 |     |
| 不 定 形 石 剣 | 1          | Bトレンチ 3区 | 4.7   | 3.2   | 0.7   | 頁岩  |     |
| 不 定 形 石 器 | 6          | Gトレンチ 3区 | 4.5   | 2.6   | 0.6   |     |     |

## 6. 考 察

1. 遺物は段丘の南縁及び東縁から出土し、東縁はやゝ出土量が多く、北縁は遺物が出土しない。
2. 調査地点では、明瞭な遺物包含層はみられなかった。
3. 出土した縄文土器は、焼成がよく、繊維の混入、及び擦痕調整などが、古い様相をみており、縄文時代早期末から前期初頭と思われる。
4. 縱形石匙は、槙山寺山西の前山遺跡や、深谷地域の遺跡などに多くみられる形で、三角形の大型の石鍬は、藏王町明神裏遺跡、長峰遺跡などに類例がみられる。
5. Gトレンチからは土師器、須恵器が出土した。
6. 昭和38年の分布調査のときに採集した、縄文中期の土器は、今回の調査では発見できなかった。

以上の所見から、茶園遺跡は縄文時代早前期及び平安時代の複合した遺跡と考えられる。

今回の調査では遺構や明瞭な遺物包含層は発見されなかったが、遺跡は段丘の南縁部及び東端部の地域が考えられる。

なお、段丘北側の谷に沿った地域は、鍋石古窯跡に近く、今回は調査ができなかったが、注意すべきである。

註 (1) 宮城県教委 (1973) 「青生田遺跡調査概報」・第29集

註 (2) 宮城県教委 (1968) 「宮城県文化財調査報告書」・第17集

宮城県教委 (1972) 「宮城県文化財調査報告書」・第25集

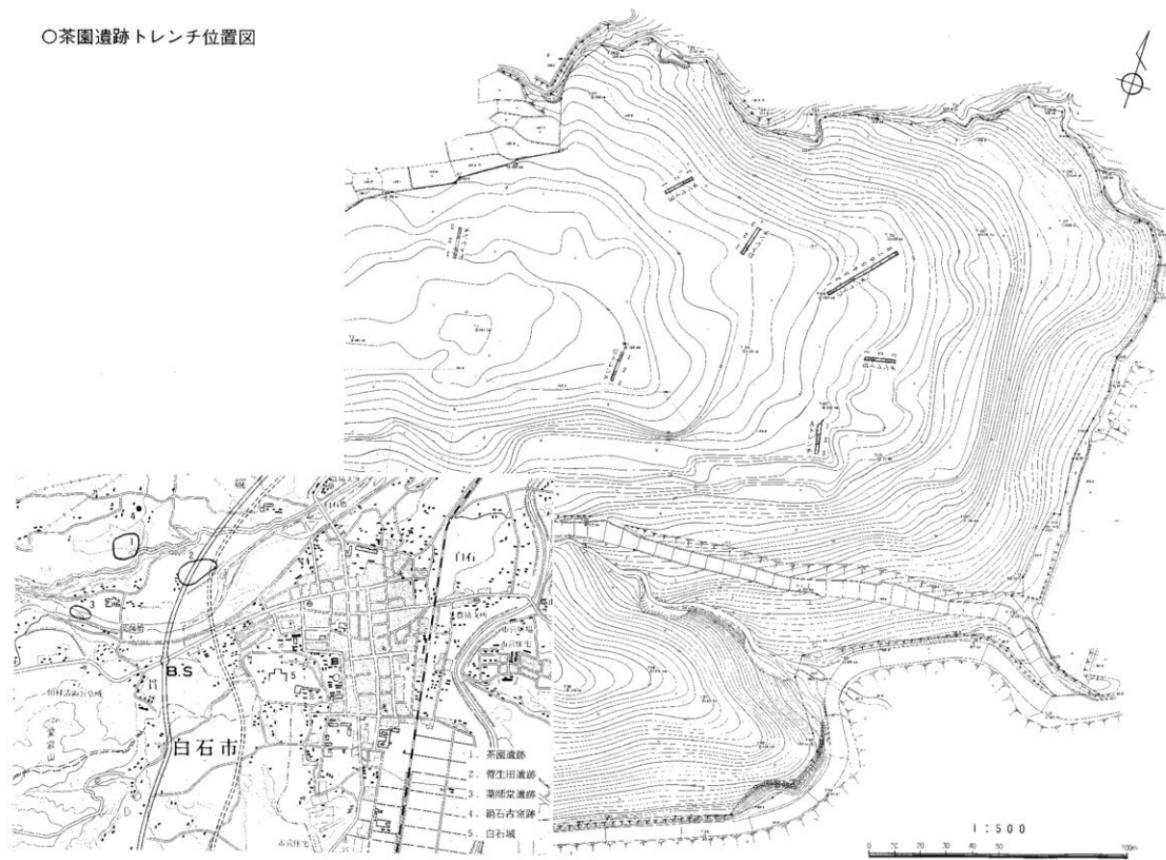
宮城県教委 (1973) 「宮城県文化財調査報告書」・第29集

## 7. あとがき

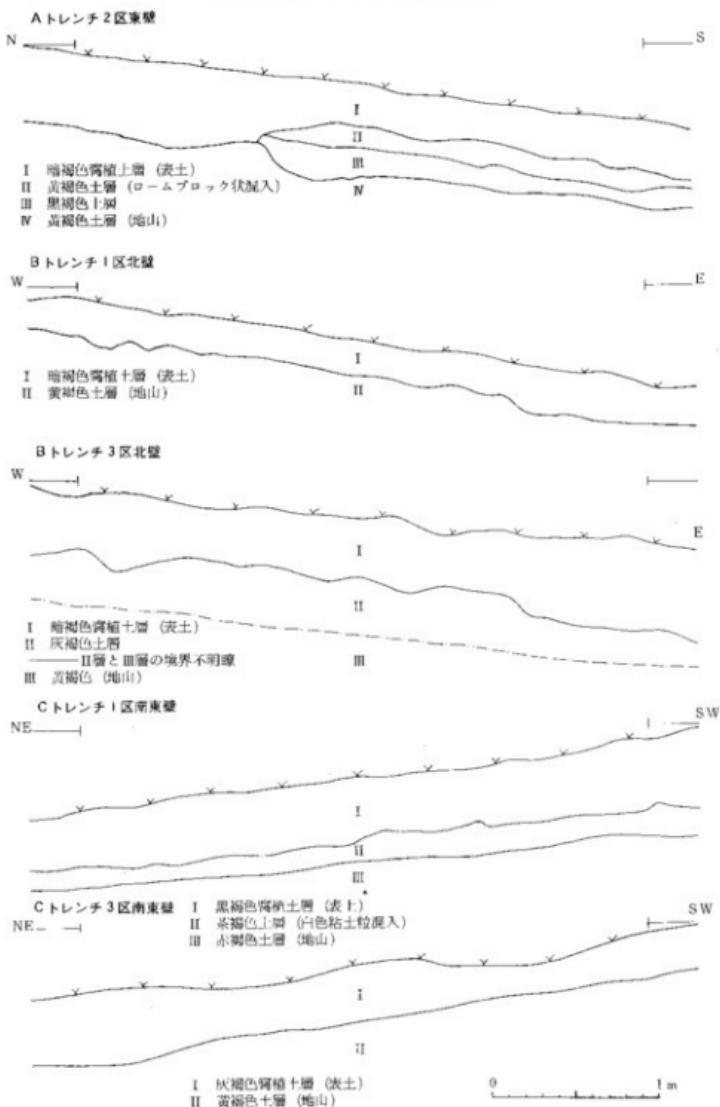
本調査は10月13日から16日までの期間で予定通り終了した。この調査が遅滞なく完了したことは、宮城県教育庁文化財保護課第二調査係長斎藤良治氏の、直接現地指導を賜わり、記して深く感謝の意を表するものである。

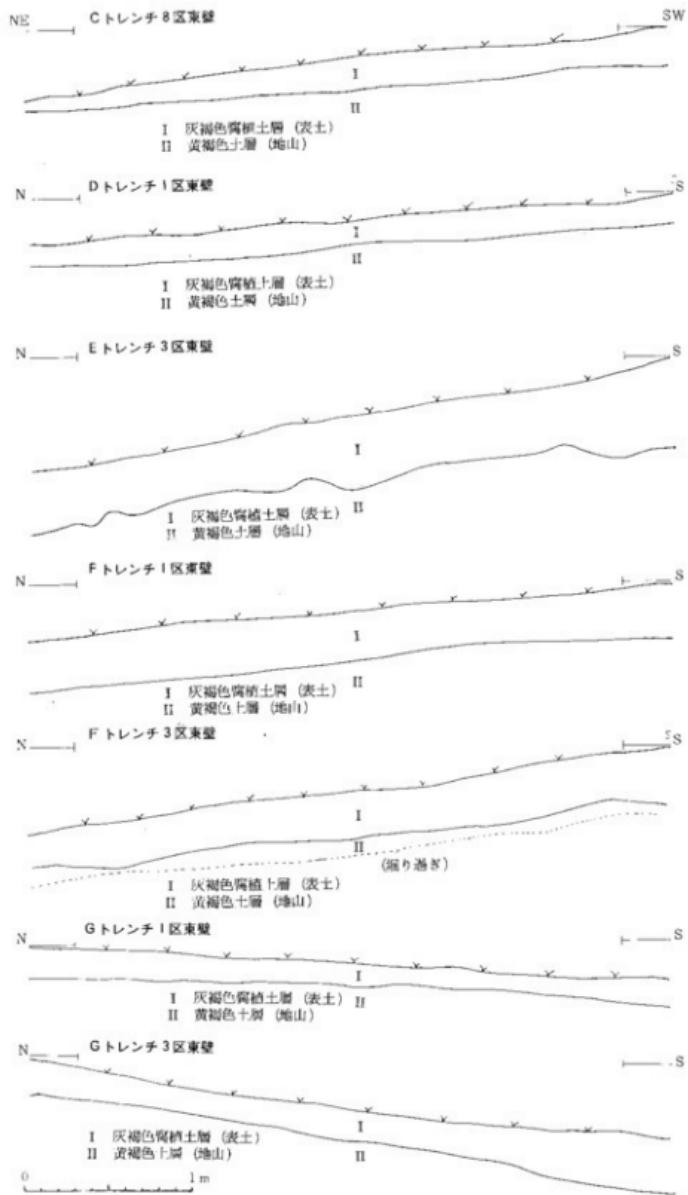
また、白石市教育委員会、京成電鉄(株)・大野豊治氏、平間組(株)・太田重信氏、小野志産業(株)・金井勝三氏を始め関係機関の御配慮御協力に対し、合わせて謝意を表するものである。

○茶園遺跡トレーニ位置図



### 茶園遺跡トレンチ断面図







茶園遺跡（北東より）



茶園遺跡（西より）



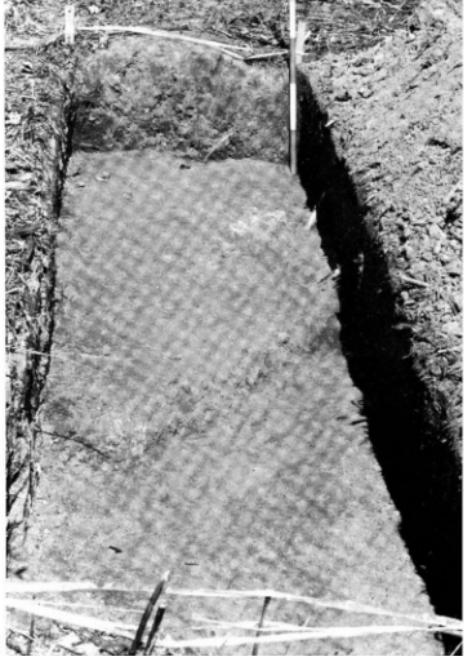
茶園遺跡



A トレンチより白石市街を



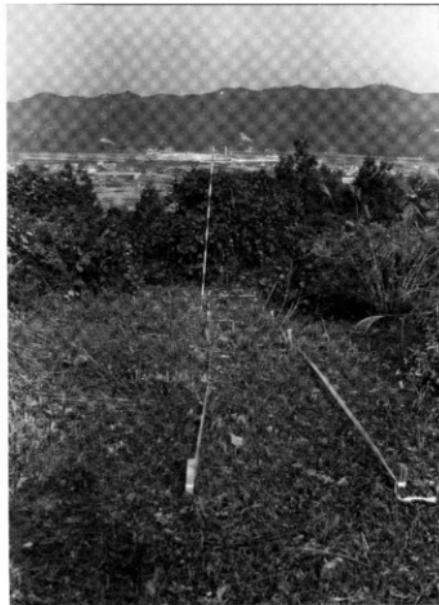
A トレンチ



A トレンチ3区



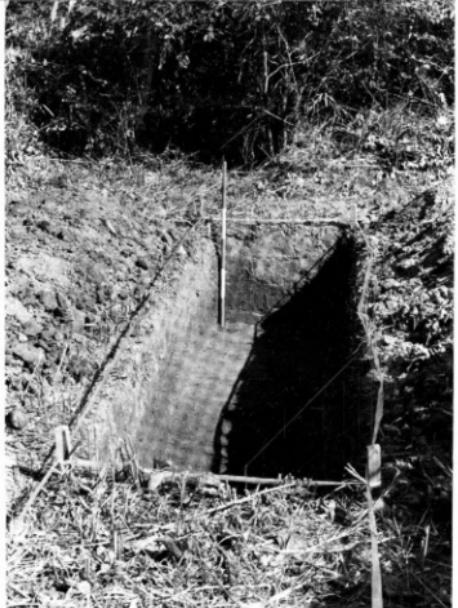
B トレンチ全景



B トレンチ全景



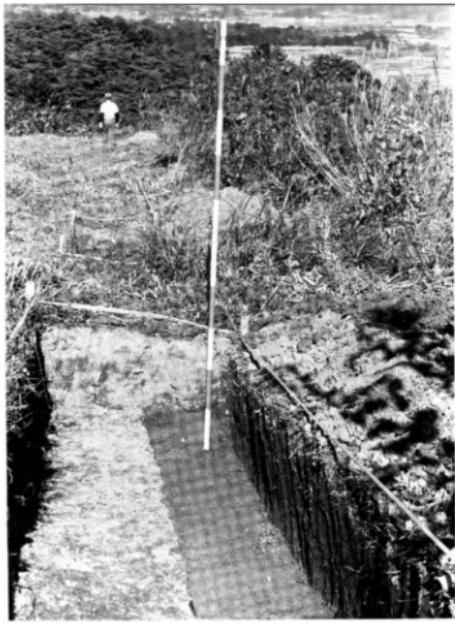
B トレンチⅠ区



B トレンチ3区



C トレンチ全景



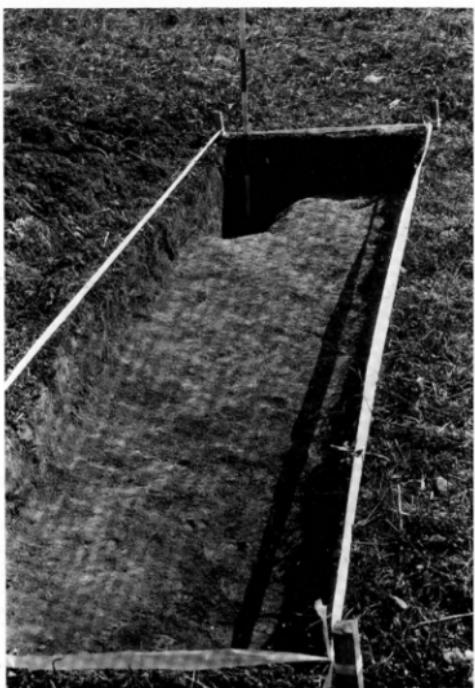
C トレンチ I 区



C トレンチ 8 区



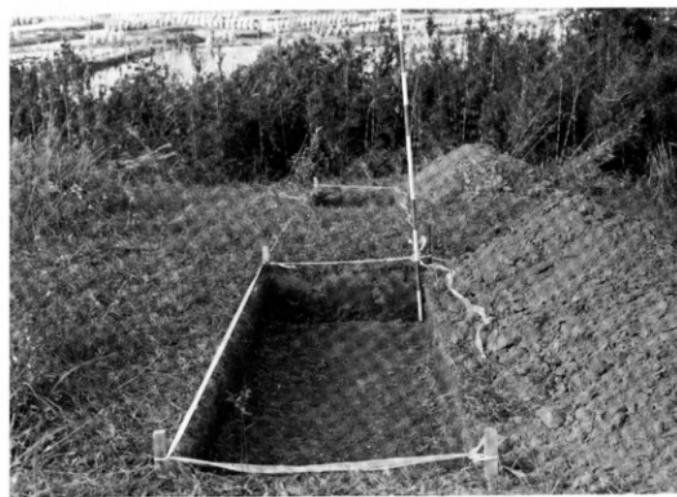
D トレンチ全景



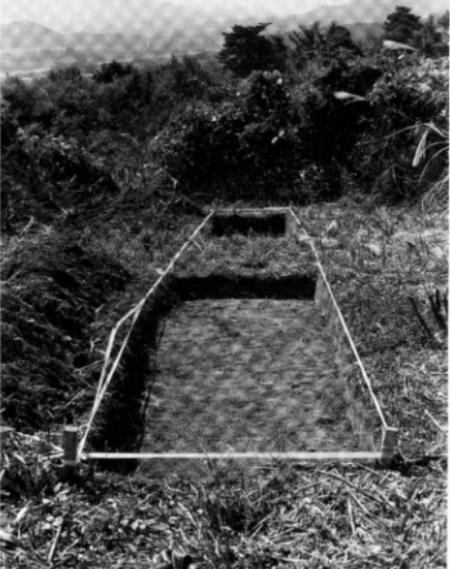
D トレンチ I 区



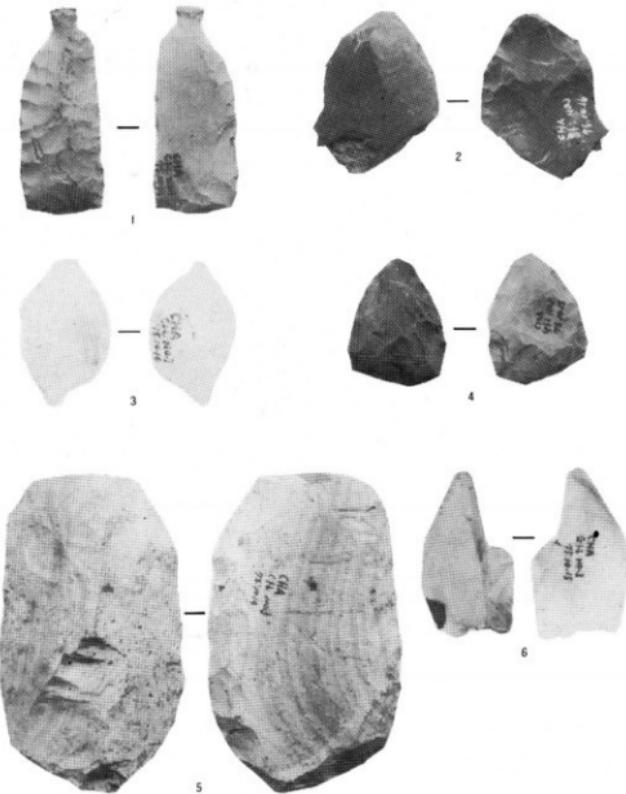
E トレンチ全景



F トレンチⅠ区



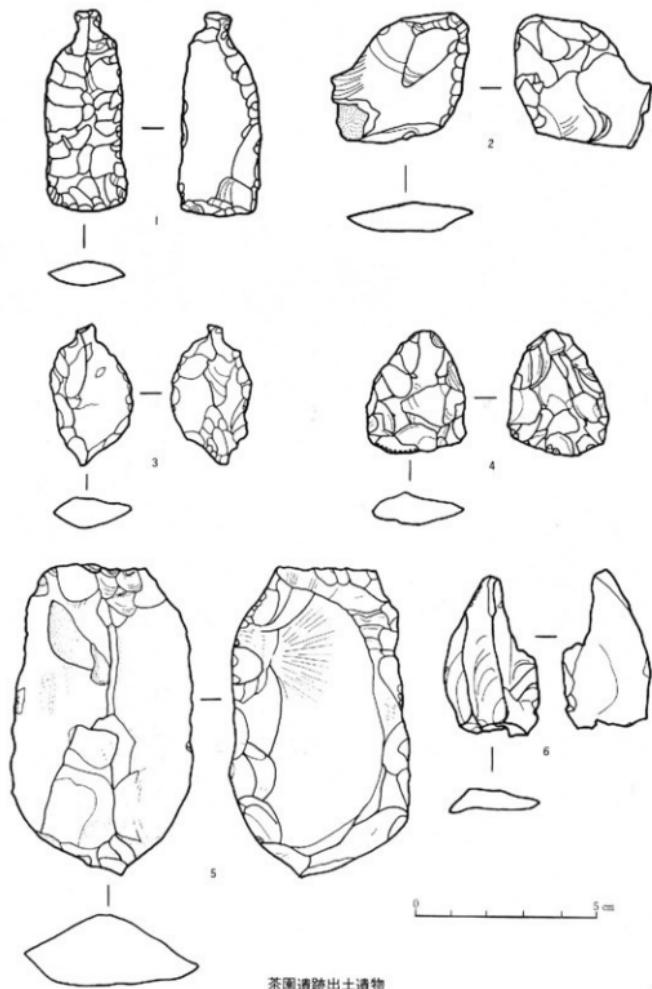
G トレンチ I 区



- 1 Cトレンチ 1区  
 チ  
 2 Bトレンチ 3区  
 3・5 Cトレンチ 3区  
 4 Gトレンチ 1区  
 6 Gトレンチ 3区

0 1 2 3 4 5 cm

茶園遺跡出土遺物



茶园遗址出土遗物



1~9 Bトレンチ3区

10 Cトレンチ1区

11~13 Cトレンチ3区

14~15 Gトレンチ1区

16~19 Gトレンチ3区

0 1 2 3 4 5 cm

茶  
茎園遺跡出土遺物

白石市文化財調査報告書第15号

## 茶 園 遺 跡

昭和51年3月15日 印刷

昭和51年3月15日 発行

発行 白石市教育委員会

宮城県白石市桜小路35 TEL 5-2111

京成電鉄株式会社

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市立町24-24 TEL (25) 6466

